

令和4年9月1日

白井市上下水道事業審議会委員 各位

白井市上下水道課

令和4年度第1回白井市上下水道事業審議会の質問に対する回答

日頃から、本市の上下水道事業の推進にご協力を賜りありがとうございます。さて、令和4年8月1日に開催されました審議会で後日回答することとなっておりました件、及び審議会終了後に質問がありました件につきまして別紙1・2のとおり回答いたします。

別紙1（審議会での質問の回答）

【公共下水道事業】

①Q： 令和4年度予算において、ストックマネジメント計画について、予算全体額についてどのくらいを占めているか。また、ストックマネジメント計画235,500千円の各年度の内訳はどうなっているか。

A： 令和4年度当初予算での建設改良に関する経費の全体額が444,361千円で、そのうち、ストックマネジメント更新に関する費用が60,115千円となっております。

また、ストックマネジメント計画更新事業に係る年度別の内訳は以下のとおりです。

（単位：千円）

施設の種類	概算費用	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管路施設	173,000	11,200	40,400	39,700	38,400	43,300
処理場・ポンプ施設	62,500	6,650	19,715	17,335	0	18,800
合計	235,500	17,850	60,115	57,035	38,400	62,100

②Q： 雨水整備において、計画降水量の算出における降雨は時間何mmとして計画しているか。

A： 雨水整備において、排水量を計算する際に用いる降雨量につきましては、1時間の雨量を50mmで算出しています。

また、昨年度に作成しましたハザードマップにつきましては、二つのパターンを想定した内水氾濫想定マップを策定しており、一つ目は、内水ハザードマップで1,000年に一度程度発生する大雨を想定した雨量で、一時間に153mmの雨が降ることを想定しています。

二つ目は、浸水想定区域図で既往最大の雨としまして、白井市やその周辺で降った過去最大の雨量で、一時間に56.5mmの雨が降ることを想定したものとなります。

③Q： 雨水整備の計画及び財源はどうか。

A： 現在、全体計画のうち市街化区域である富士地区の整備を進めており、千葉NT地区や金山地区（うち西白井）の雨水整備は完了し、白井地区も一部完了しております。工業団地地区については順次整備を検討してまいります。

富士地区については、平成26年度に下水道法事業認可を取得し、平成27年度より整備を開始し、整備期間は36年間（令和32年まで）を見込んでいます。

現在は、神崎川接続部から既存のコンクリート柵渠までの幹線管渠整備について、令和4年度の完成を目指し、工事を進めています。

令和5年度からは、八幡神社から富士124番地までのルート、八木ヶ谷通りから風間街道を經由し富士西地区へ向かうルート、そして八木ヶ谷通りから県道市川印西線を經由し、鎌ヶ谷市との行政界まで向かうルートの3ルートで、総延長7,861mを整備する計画としています。

整備費については、令和3年度から令和7年度までの全体の事業費が755百万円で、財源については全額公費で、2分の1を国費、残りの2分の1を市の負担としています。

④Q： 計画と実績で処理区域内人口が約5,000人、水洗化人口が約3,000人の差があるがこういった要因で生じているか。

A： 計画人口は平成19年度に策定した全体計画を基に推計を行っています。

処理区域内人口の計画と実績の差が生じた主な要因は、小室・白井処理区の平成35年の計画人口を23,195人と推計しておりましたが、見込みよりも人口が伸びず、令和2年度末の実績が19,444人と乖離が生じたためです。小室・白井処理区以外では、概ね計画に近い人口となっております。

水洗化人口の計画と実績の差が生じた主な要因は、同様に小室・白井処理区の平成35年の計画人口を22,040人と推計しておりましたが、見込みよりも人口が伸びず、令和2年度末の実績が19,000人と乖離が生じたためです。

処理区域内人口

(単位：人)

処理区	計画 (H35)	実績 (R2年度末)
鎌ヶ谷	440	411
神崎	6,920	6,556
白井第2	2,814	3,084
白井第3	10,336	9,758
小室・白井	23,195	19,444
印西第4	5,920	5,899
白井	997	691
金山第2	5,880	5,750
合計	56,502	51,593

水洗化人口

(単位：人)

処理区	計画 (H35)	実績 (R2年度末)
鎌ヶ谷	420	407
神崎	6,570	6,368
白井第2	2,670	3,084
白井第3	9,820	9,703
小室・白井	22,040	19,000
印西第4	5,620	5,899
白井	930	413
金山第2	5,470	5,661
合計	53,540	50,535

※各処理区のエリアについては資料P7、または市ホームページに掲載しております

「污水計画一般図」をご覧ください。

なお、全体計画の污水処理面積が1,791haとなっておりますが、そのうち市街化区域の部分(1,017ha)を事業計画として定めているため、差が生じております。

別紙2（審議会後の質問の回答）

1. 公共下水道事業の整備・普及、利用状況（P10.）

- ・処理区内人口と水洗化人口、汚水処理面積の各項目について、全体計画・事業計画・令和2年度末実績との差はどうしているのか（何故生じているか）。
 - ① 全体計画・認可（事業）計画面積（処理区毎）
 - ② 全体計画・認可（事業）計画人口（処理区毎）
 - ③ 全体計画・認可（事業）計画水量（処理区毎） など〔数量〕

【回答】

別紙1④の回答と同じ

2. 下水道事業における経営状況の特徴（P16.）

- ・「汚水処理に係る経費回収率」は100%を超えているが、実績が水洗化人口（及び処理水量）に近づいた場合、経費回収率はどのようになるか。又損益計算にどう反映して行くか。

【回答】

水洗化人口や処理水量が計画に近づいた場合、経費回収率はさらに上昇するものと考えております。

しかしながら、資料の18ページの記載のとおり白井市の人口は平成30年度をピークに減少に転じているため、将来的に経費回収率は下降するものと考えております。

経費回収率が低下し、収益が悪化した場合はさらなる業務の見直しの他、下水道使用料の見直しが必要になってくると考えております。

3. 雨水整備計画について（P18.）

- ・「白井市公共下水道雨水整備計画」は、既に国の認可を得て事業を進めていると考えますが、そのなかで財政計画もたて実施したと解釈しており、前回の会議では詳しい説明はありませんでしたので、全体計画、認可計画区域の範囲（数量）や財源（費用）を示されたい。今後の整備推進、財政事情に影響するかと考えます。

一排水区毎と主要な幹線含む。

また、認可区域（紫枠内白抜き）の事業実施計画はありますか（金山排水区など～白井工業団地等）。

【回答】

別紙1③の回答と同じ

4. 無収水量の今後の対策について(P10.)

- ・当市の下水道は、既に「耐震対策」を完了しているとのことですが、処理水量の中で、無収水量の対策については改築更新と併せどのように実施して行くのか。
(以前、“災害対策”のため、管渠やマンホールポンプの被害想定を検討、対策計画を策定した事等を活用でしょうか)。

尚、先日の審議会にて配布頂きましたP7・区域図（汚水）、P9・区域図（雨水）では見え難いためA1版サイズ程度の図面を再配布願います。

【回 答】

無収水量（不明水）の対策としては、テレビカメラ調査により判明した侵入水箇所
の更新や補修を実施しているところです。

また、令和2年度から、不明水対策を目的とした送煙調査を行っております。

区域図につきましては、A1版サイズのご用意がないため、A3サイズを配布させていただきます。また、市ホームページからも閲覧が可能で、ご覧になりたい部分の拡大ができます。